新居浜高専英語カリキュラム改編の骨子

福光 優一郎*　平田 隆一郎*

Key Points of the New English Education Program at Niihama College

Yuichiro FUKUMITSU*　Ryuichiro HIRATA*

This article presents an overview of the new English education program at Niihama college that started in 2022. Our program has developed with the Model Core Curriculum of the National Institute of Technology and the Revised Foreign Language Curriculum Standards of MEXT. To develop engineers who can work worldwide, we put a great emphasis on nurturing the global mindset and communication skills. The program provides a wide range of opportunities for learning English and communicating in English, and we believe it will improve our students' English ability and communication skills.

１．はじめに

新居浜高専は令和4年度に本科の英語カリキュラムを刷新した。従前の英語カリキュラムが施行されて以降、社会における英語学習および英語教育の環境は大きく変化してきた。本稿では、本校および本校学生を取り巻く環境の変化に対応するために令和4年度から年次進行で導入した英語新カリキュラムの目標と指針、基本的枠組みについて述べる。

２．背景

２－１　モデルコアカリキュラム

国立高等専門学校機構が策定するモデルカリキュラムは、「国立高専のすべての学生に到達させることを目標とする最低限の能力水準・修得内容である「コア」と、高専教育のより一層の高度化を図るための指針となる「モデル」とを提示したもの」で、国立高専で育成する技術者が備えるべき能力を分野別・科目別に6つの到達レベルを設定している。本科教育課程における英語教育では「英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や異文化を理解しようとする姿勢を身につけ、ある程度の的確さ、流暢さ、即応性を持って、社会性のある話題や自らの専門に関する基礎的な情報や考えなどを理解したり伝えたりできる。（適用レベル）」と定めらており、特に英語運用能力の伸長とそのための「実際の運用の機会を作り出す」ことが求められている。

２－２　高等学校学習指導要領

高等学校学習指導要領は令和4年度から新課程が年次進行で始まった。外国語科目は「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」という目標に沿って新たに科目が設置されている。新課程では「実際のコミュニケーションにおいて効果的に活用できる技能を身に付けるよう」にと、外国語の運用能力に重きが置かれることになり、また外国語の運用能力を同一基準で測るための国際標準「外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠（Common European Framework of Reference for Languages: CEFR）」が参照すべき尺度として取り入れられた。

２－３　英語運用能力の要請

前節までに概観したように、モデルコアカリキュラムと高等学校学習指導要領において英語運用能力ならびにコミュニケーションスキルの育成に重点が置かれることになった。新居浜高専においても学生たちが本校在籍時に海外研修や海外

令和4年10月3日受付　（Received Oct. 3, 2022）

* 新居浜工業高等専門学校一般教養科（Faculty of General Education, National Institute of Technology , Niihama College, Niihama, Ehime, 792-8580, Japan）

インターンシップ、学会発表などで海外渡航の環境が充実してきており、それに伴い英語を使用する機会が飛躍的に増加してきた。さらに近年では就職や進学時にTOEICスコアの提出が求められるようになり、コミュニケーションスキルとしての英語能力が問われるようにもなった。

このような変化の中で、新居浜高専ではこれまで授業内容やテキストの変更等で対応してきた。しかしながらグローバル化が加速的に進む中、従前の英語カリキュラム・科目編成ではコミュニケーションスキルとしての英語力の向上及び学生の就職・進学において必要性の高まるTOEICを含め、社会から求められる英語力の要請に対応しきれない状況にあった。

３．新カリキュラムの指針と枠組み

これらの背景を踏まえて、新居浜高専における本科5年間の英語教育の指針として「英語運用能力とコミュニケーションスキルの育成」を掲げ、以下の7つの基本的枠組みの下に新カリキュラムの策定を進めた。

(1) モデルコアカリキュラム
(2) 高等学校新学習指導要領
(3) グローバルマインド育成
(4) 多様な学習機会の提供
(5) 英語ネイティブ教員の授業増
(6) TOEIC対応（就職・進学対応）
(7) 進路選択に対応可能なカリキュラム編成

この章ではこの7つの基本的枠組みを概観する。

３－１　モデルコアカリキュラム

モデルコアカリキュラムの「英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や異文化を理解しようとする姿勢を身につけ、ある程度の的確さ、流暢さ、即応性を持って、社会性のある話題や自らの専門に関する基礎的な情報や考えなどを理解したり伝えたりできる。」を踏まえ、従来の講義形式の授業に加え、ペアワークやグループワーク、演習形式などの活動を取り入れたり、他教科や学内外の活動との接続・連携を図ることにより、学生が主体的・能動的に英語を運用する機会を提供する。

３－２　高等学校新学習指導要領

高等学校の新学習要領には「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」とあり、バランスの取れた四技能の獲得と運用が可能となるように、低学年から高学年へと段階的にインプットとアウトプットの量を調整し、英語運用能力の伸長を目指す。

３－３　グローバルマインド育成

グローバル化が加速するこれからの時代においては、たとえ日本国内にいたとしても公私さまざまな場面において外国人や海外とのつながりを持つことになる。特に卒業後はエンジニアや研究者として活躍することが期待される高等専門学校の学生たちにとって、自分たちが身に付けた英語運用能力を実際に活用して周りの世界とつながろうとする意識、つまりグローバルマインドを醸成することが肝要である。英語科目が「聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと」の英語運用能力を育成すると同時に、豊かな教養と広い視野とに基づくグローバルマインドの醸成を可能にする授業を本科の教育課程の中に盛り込む必要がある。

３－４　多様な学習機会の提供

新居浜高専には1学年200名の学生が在籍する。学生間の英語力には大きな開きがあり、また学生たちの英語学習に対する意欲や動機、目標もさまざまである。通常の授業では1クラス40人を対象に実施するため、中間層をターゲット層に設定し、意欲のある学生たちには追加的な活動や課題を課すことで対応している。しかしながら意欲のある学生たちのすべての希望に応えるには質的にも量的にも限界がある。唯一本科5年生において語学系の選択科目の枠内に英語科目を2つ設定しているが、低学年時から意欲のある学生たちに対して英語学習の機会、特に英語運用能力を伸長させる機会を提供することで、そうした学生たちの期待に応えるとともに、全体的な英語力の底上げを図ることができるはずである。

３－５　英語ネイティブ教員の授業増

本科1年次と3年次において非常勤の英語ネイティブ教員による半期の英会話の授業を開講している。英語ネイティブ教員との英会話に英語アウトプットにより学生たちの英語運用能力とコミュニケーションスキルを伸長させることができているが、開講数に限りがあるため、本科5年間の教育課程の中で継続的に英語ネイティブ教員とのコミュニケーションが図ることができるように英語ネイティブ教員による授業増が望まれる。

３－６　TOEIC対応

新居浜高専では10年ほど前から全学生を対象としてTOEIC IPを実施している。本科3～5年生と専攻科生の全学生を対象として当初は学内で年1回実施していた。その後、年1回の全員受験に加えて、全員受験の半年後に希望者を対象とした試験の機会を設けた。また、本科3年時に始まるTOEIC IPに備える形で本科1年生と2年生を対象にTOEIC Bridge IPを導入した。

また、令和3年度からはそれまで本科2年生以上で実施してきたTOEIC対応の学習の開始を本科1年生からに引き下げ、本科在籍時に継続的にTOEICスコアのアップが図れるようにしたり、図書館に配架するTOEIC対策の書籍の充実を図ったりしている。

しかしながら、TOEIC対応の授業は本科5年生の選択科目で開講しているのみであり、個々の授業内においての単発的な対策は実施しているものの、学生たちが自身のTOEICのスコアを活用する時期が本科5年生の年度当初に多数を占めることを踏まえると、もう少し早い段階でのTOEIC対応の授業を取り入れる必要がある。

３－７　進路選択に対応可能なカリキュラム編成

英語教育の目標は英語運用能力とコミュニケーションスキルの育成と伸長であり、新居浜高専においてもモデルコアカリキュラムや高等学校新学習指導要領に基づいたカリキュラム編成を行う必要がある。一方で新居浜高専の学生たちは進路選択時においてさまざまな形で英語力が評価されおり、、TOEICや英語技能検定、各大学の英語試験などが進学、編入学や就職時において必要とされることが多い。多くの場合は本科5年生の学生は年度当初あるいは少なくとも前期の間に進路を決定していることを鑑みると、学生たちの英語力のピークが4年次終了時に来るような形での科目配置を含むカリキュラムの変更を検討する必要がある。

４．英語新カリキュラム

以上のような背景に基づき、新居浜高専の英語教育の目標を英語運用能力の育成、コミュニケーションスキルの伸長およびグローバルマインドの醸成とし、令和2年度から英語カリキュラムの再編検討に着手し、令和4年度に年次進行で英語科目および関連科目の新設を含む新カリキュラムに移行した。

４－１　旧開講科目一覧

以下は令和3年度までの英語の開講科目一覧である。

本科1年

英語1	通年4単位；中学英語の定着、英語学習の習慣化、検定教科書
英会話1	後期1単位；英語ネイティブ教員が担当

本科2年

英語2A	通年2単位；リスニング主体
英語2B	通年3単位； 英語１を引き継ぐ内容、リーディング主体、検定教科書

本科3年

技術英語1	通年2単位；大学教養英語レベルの一般科学の教科書、リーディング主体
英語3	後期1単位；英文エッセイ作成
英会話2	前期1単位；英語ネイティブ教員が担当授業

本科４年

技術英語2	通年2単位；大学教養英語レベルの一般科学の教科書、リーディング主体

本科5年

時事英語	通年2単位；大学教養英語レベルの時事問題をテーマとした教科書、リーディング主体
総合英語	後期2単位；選択科目（編入試験対策）
実用英語	後期2単位；選択科目（TOEIC対策）
英会話3	前期1単位；自由選択科目（日本人教員）

新カリキュラムの指針と枠組みの下では、(8)～(12)に示すように旧カリキュラムの開講科目だけでは対応しかねる点が複数存在し、これらに対応すべく各科目の内容および開講時期の検討を重ねた。

(8) 5年間の英語教育課程の統一的な教育目標
(9) 英語運用能力とコミュニケーションスキルを伸長させる発信型活動
(10) 英語力のピーク設定による開講科目数と時間数のバランス
(11) 多様な学習者に対応可能な学習機会の提供
(12) グローバルマインド育成のための取り組み

４－２　新期開講科目一覧

新カリキュラムでは本科1年生における英語基礎力の定着、英語ネイティブ教員による発信型英会話指導による英語運用能力の育成と新規に開講するリベラルアーツ演習によるグローバルマインドの育成の3つを柱とすることで、学生たちの5年間の英語学習を含む新居浜高専での主体的・能動的な学びにつなげることを期待している。

本科2年次以降はインプットとアウトプットの量を段階的に増やしつつ、4技能をバランスよく伸長させて、本科4年修了時に英語力のピークを迎えられるように科目内容、科目数や開講時期を大きく変更した。また、学生の学習意欲や要望に対応できるよう、習熟度に応じた科目を開講したり、授業外のオンライン英会話や語学研修などの意欲的な取り組みについても単位認定（卒業単位）の対象とした。

さらには令和4年度に新たに英語ネイティブ教員が一般教養科のメンバーに加わったことで、当初計画していた英語ネイティブ教員による授業の充実を図ることも可能となった。

以上のような方針の下で令和4年度に導入した英語新カリキュラムの開講科目一覧は以下の通りである。

本科1年：英語基礎力の定着・英語学習の動機付け

英語1	通年4単位；中学英語の定着、英語学習の習慣化、検定教科書
英会話1	後期1単位；ネイティブ教員による発信型英会話指導（入門）
リベラルアーツ演習	前期1単位；グローバルマインド育成

本科2年：4技能の伸長

英語2A	通年2単位；リスニング・スピーキング
英語2B	通年2単位；リーディング・ライティング

本科3年：英語運用能力の育成

英語3A　通年2単位；TOEIC対策

英語3B　通年2単位；ネイティブ教員によるライティング・プレゼンテーションの指導

本科4年：英語を介した科学技術知識の獲得と活用

英語4　通年2単位；現行の技術英語を継承、専門科目への接続

本科5年：英語運用能力の強化

英会話2　前期1単位；ネイティブ教員による発信型 英会話指導（発展）

英語特講A　後期2単位；選択科目（A・Bの習熟度別）

英語特講B　後期2単位；選択科目（A・Bの習熟度別）

全学年共通：語学研修科目

英会話演習　1または2単位；オンライン英会話

海外語学研修　1または2単位；海外語学研修など

新カリキュラムは年次進行で適用されていくが、旧カリキュラム下の科目についても新カリキュラムの指針に基づき、テキスト見直しや5年選択科目での習熟度別コースの導入など、順次対応を進める。

５．むすびに

本稿では令和4年度から導入した英語新カリキュラムの目標と指針、枠組みについて概観した。今後5年間を経て新カリキュラムへの完全移行となるが、その間においても英語学習環境の充実と継続的に授業改善を図り、学生たちの英語運用能力の育成、コミュニケーションスキルの伸長およびグローバルマインドの醸成に取り組んでいきたい。

参考文献

[1] 国立高等専門学校機構「モデルコアカリキュラム ガイドライン」, 2017.

[2] 文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 外国語編　英語編」, 2018.

[3] Council of Europe, *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching and Assessment*, 2001.